

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年8月22日（木）

2 確認箇所

2号機原子炉建屋（図1）

※作業状況を遠隔操作室において確認

3 確認項目

テレスコピック式試験的取り出し装置によるデブリ取り出し作業の状況

4 確認結果の概要

2号機においてテレスコピック式試験的取り出し装置（以下「テレスコ装置」という。）による燃料デブリ^{※1}試験的取り出し作業が計画されている。

本日から燃料デブリ試験的取り出し作業が開始されることから、その状況を確認した。なお、テレスコ装置を原子炉格納容器に設置する作業は完了しており、8月16日には、原子力規制庁からテレスコ装置の使用前検査終了証が交付された。

本日の作業は主に次の①から④を予定していた。①原子炉格納容器の貫通孔（X-6ペネ）の前面に設置された隔離弁を解放する。②ガイドパイプ^{※2}を押し込む。③押し込みパイプを継ぎ足す（ガイドパイプと押し込みパイプを接続する）。④ガイドパイプをさらに押し込む。ガイドパイプの押し込みによりテレスコ装置の先端が隔離弁を通過する。

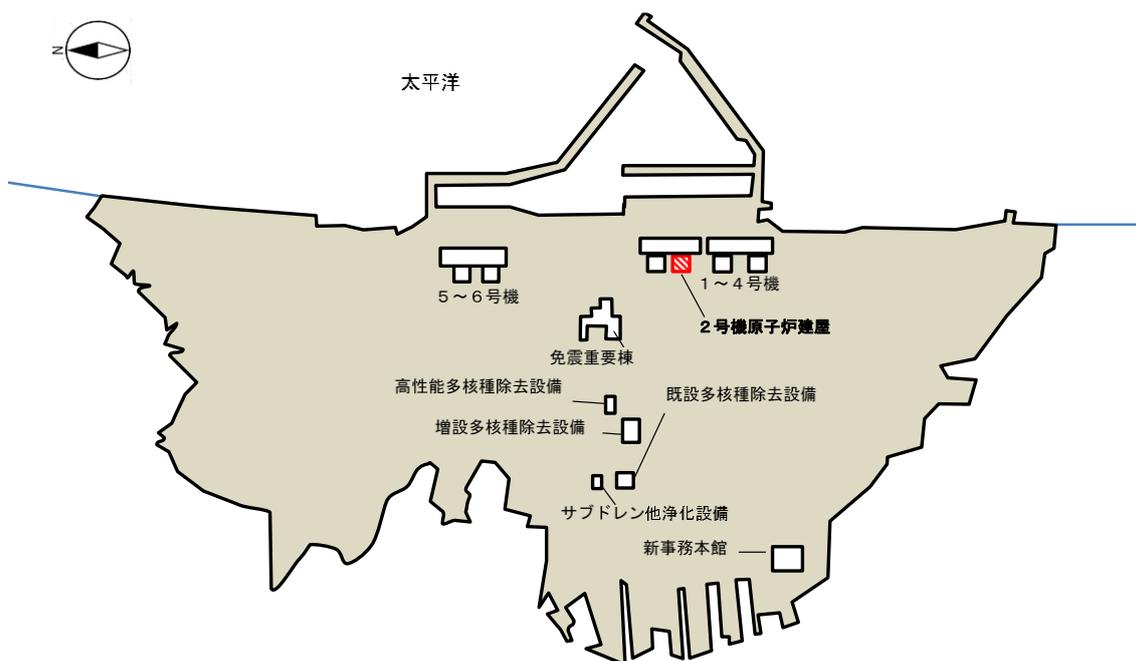
- ・テレスコ装置の囲い（エンクロージャ）内の圧力や装置の状態を確認した後、午前7時24分、デブリ取り出し作業開始の判断が行われた。
- ・7時49分に隔離弁が解放され、ガイドパイプの挿入が開始された。（写真1）
- ・ガイドパイプに押し込みパイプ（全5本中の1本目）を接続するための準備作業中に、押し込みパイプを接続する順番が計画していた順番と異なる（2番目の押し込みパイプを最初に取り付けようとしていた）ことに元請け作業員が気付いたため、作業が中断された。（写真2）
- ・東京電力によると、本日の作業はここまで（隔離弁の解放、ガイドパイプ挿入まで）とし、押し込みパイプの順番が異なった原因を確認するとともに、今後、必要となる作業について、手順を含め確認・整理を行っていくとのことであった。作業の再開時期は未定としている。

※1 燃料デブリ

燃料と被覆管等が溶融し、再固化したもの

※2 ガイドパイプ

金属でできた筒。外筒と内筒からなり、内筒は原子炉格納容器内部まで伸びる構造となっている。内筒の先には圧力容器下部にアクセスするためのチルト機構・テレスコ機構が接続されている。



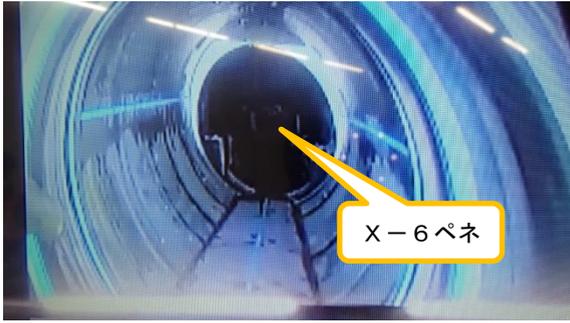
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)

ガイドパイプ挿入の状況

※遠隔操作室にある操作画面を撮影



(写真1-2)

テレスコ装置の先端部に設置された
カメラの映像

※遠隔操作室にある操作画面を撮影



(写真2)

接続前の押し込みパイプの仮置き状
況

※遠隔操作室にある操作画面を撮影

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータに異常な値は確認されなかった。